

長崎の林業

小曾根星堂書



原地区老人会の皆さんによる樺の実の収穫（松浦市福島町）

2

目次

● 林政だより	少花粉スギ・ヒノキ苗木の安定供給に向けて ～県営採種穂園の再整備完了～	2～3
● 特集記事	松浦市福島町 地域の連携で引き継ぐ伝統 山の恵みで作る「天然椿油」	4～5
● 林業普及だより	ながさ木ハートのカスタネット販売！～ながさ木で、 いろいろな人がつながり、みんなが幸せになること～	6
● 地方だより・対馬	伐倒技術・安全意識向上研修が行われました	7
● 地方だより・五島	令和2年度 五島市森林のつどい	8
● 林業団体情報	令和2年度 長崎県フォレストマスター登録研修を 開催しました	9
● センターだより	ドローン空撮写真の地上解像度について	10
● 紹介コーナー	日和木（木工雑貨）	11
● 長崎の山：愛宕山259m（佐世保市）		12

「長崎の林業」は、
ながさき森林環境
税により発行して
います。



2021
No.785

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

少花粉スギ・ヒノキ苗木の安定供給に向けて ～県営採種穂園の再整備完了～



採種母樹のヒノキ球果

県営採種穂園の役割

スギ・ヒノキの種子を生産する母樹園を「採種園」、さし木用穂木を生産する母樹園を「採穂園」と言います。母樹の遺伝的形質は、種・穂木から苗木、植栽木へと引継がれ、伐採・収穫時の収益に大きく影響します。林業の場合、この植栽から収穫まで50年以上を要するため、種や穂木の系統の選択、つまり母樹の選択が特に重要です。

本県では昭和39～44年度に、県営の採種穂園を東彼杵町遠目に整備しました。母樹は、林木育種事業で選抜された「精英樹」で、当時の社会的要請である「林業生産力の増強」に应运、九州各県で選抜された成長や形質に優れた系統です。

昭和50年度頃から精英樹の種穂の採取が開始され、県内の苗木生産者へ供給されています。本県の苗木自給率は8割程度ですので、林齢が45年生以下のスギ・ヒノキのほとんどは県営採種穂園の出身の「精英樹」系統だと言えます。

再整備の必要性

県営採種穂園は、成長や形質に優れた種穂を供給する役割を果たしてきましたが、造成後50年以上を経過して母樹は老齢化し、年々着果量が減少し、種子の発芽率も低下しています。また、母樹の高さも10m前後となり、球果採取の効率が悪く、安全面でも問題があります。さらに剪定などの維持管理にも非常に手間と経費がかかっています。今後、増加が見込まれる主伐・再造林に必要な苗木を生産するための種穂の不足が懸念されました。

少花粉系統による再整備

全国的な社会問題である花粉症の対策として、国の林木育種場が中心となり、従来の精英樹から花粉飛散量が通常の1%以下の少花粉系統が選抜されました。少花粉系統は精英樹から追加選抜されているので、成長や形質に優れ、かつ花粉が少ない系統です。

県では採種穂園の再整備と併せて、新たな社会的要請である花粉症対策として、この少

花粉系統による採種穂園の造成を図ることとしました。

平成27年度策定の「新ながさき農林業・農山村活性化計画」に基づき、令和7年度の人工林主伐面積360haに必要な苗木を供給するに足る母樹の植栽を計画しました（表1）。

表1 採種穂園の苗木供給計画

樹種	区分	母樹数 (本)	苗木本数 (本)
ヒノキ	採種園	675	216,000
スギ	採種園	1,440	144,000
スギ	採種園	147	50,000
計			410,000

また、種穂の採取や維持管理の効率化のため、地形的に平坦で、母樹の高さ2m程度のミニチュア採種穂園としました。平成28年度に着手し今年度整備は完了しますが、今後、計画どおり種穂を供給するため適切な管理を行っていきます。



新たに造成された採種穂園

コンテナ苗の活用推進

コンテナ苗とは、※根巻きを防止できる容器で育成され、根に培土が付いた状態で出荷する新たに開発された苗です。対して、従来の苗木は、根がむき出しの状態です。裸苗は春または秋の限られた時期にしか植栽できませんが、コンテナ苗は根付きが良好で、1年を通して植栽できます。そこで、「皆伐・植栽一貫作業システム」による

植栽や低密度植栽等の造林事業の低コスト化を図るため推進することとしています。

※根巻き：根がポットの形に巻いてしまう現象。



ヒノキのコンテナ苗

しかし、現在、県内の苗木生産者は5名に減少し、うちコンテナ苗生産者は2名となっています。県では、苗木生産者の育成のため、新規参入者講習会やコンテナ苗の技術研修会、先進地視察等の実施、及び、生産資材や機器の購入補助を行っています（補助率1/2）。



苗木生産新規参入者の講習会

おわりに

以上のように、県では県営採種穂園から成長や形質が優良で、かつ少花粉のスギ・ヒノキの種穂を苗木生産者へ供給するとともに、コンテナ苗の生産体制を整備し、少花粉コンテナ苗の安定供給を図り、造林事業の低コスト化を進め、併せて花粉症対策という社会的要請に応えることとしています。

（森林整備室森林整備班）

【特集記事】

松浦市福島町



地域の連携で引き継ぐ伝統
山の恵みで作る「天然椿油」

社会福祉法人夢追会 就労支援施設ホープステーション 理事長 ^{まつだ} 松田 ^{ひでき} 栄喜さん

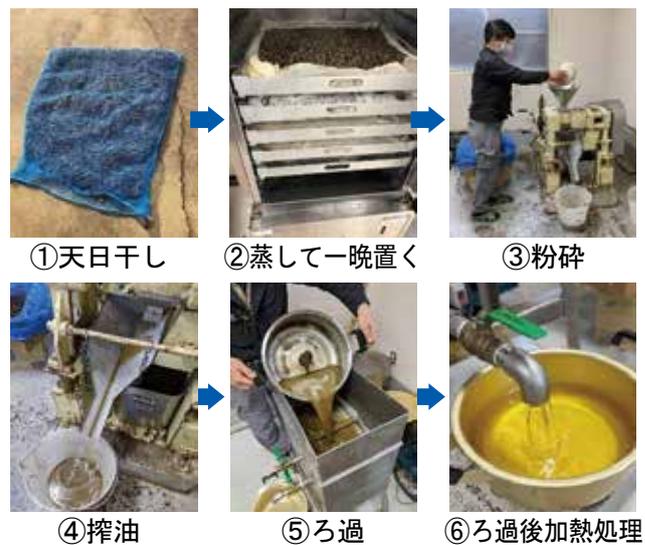
松浦市福島町は伊万里湾に浮かぶ人口2500人程の自然溢れる町です。元々は炭鉱の町でしたが昭和47年に閉山し、後に車エビや真珠などの養殖業や農業が主産業となりました。中でも400枚にも及ぶ田んぼが並ぶ「土谷棚田」で作られる棚田米は絶品です。風光明媚な地理を活かした観光業にも力を入れており、海岸線に続くこの棚田から見る夕陽を求めて多くのカメラマンが訪れています。また古くから「椿のまち」としても知られ、2月頃から5万本のヤブツバキ群生林を有する初崎地区を始め、町内各所で咲く可憐で美しい花に出会えます。今回はその椿を、町の特産に役立てようと奮闘する松田栄喜さんに話を伺いました。

人と地域に優しい取り組みを

松田さんは現在「就労支援施設ホープステーション」の理事長を務められています。一般就労が困難な障害を持つ方々に就労の機会を提供し、無期限で通える場所をと亡父が作り上げた施設を受け継いだそうです。利用者は町内だけでなく近隣の鷹島町や伊万里市、唐津市からも通所されており、主にスナップえんどうやメロン、トマトなどを

生産販売し、年間を通して一律に賃金を払えるよう工夫されています。その農作業の合間に12年程前から取り組んでいるのが、椿油の製造です。福島町では昔から町の木として馴染みの深い椿の実で各家庭でも椿油を作っていたそうです。松田さんは平成21年に施設内に機械を導入し本格的な製造を始められています。

椿油の製造工程は以下のとおりです。



⑥で加熱処理した後、瓶詰めして出荷となります。段ボール1箱分約15kgの椿の実から出来る椿油はわずか3ℓ程だそうです。

地元でとれた純度 100%の椿油

過疎化が進む生まれ育った町のため、何とか地元の名物になるものにと始めた椿油作り。当初は試行錯誤の繰り返しでした。機械の故障や、手間と時間のかかる作業が続き、生産性や利用者さんへの還元に不安が募ることもあったそうです。しかし地元の商工会や近隣の方々の協力を受け、少しずつ口コミで広がっていきました。町内の宿泊施設や近隣の道の駅などで販売されるホープステーションの貴重な椿油は、昔からの常連さんを始め、宿泊客や若い世代の方にも愛される人気の特産品となっています。 100%福島町産椿油



慣れな私は、高い枝から実を見つけ出し、たったひとつの実を切り落とすのにも一苦労。しかし会の皆さんは沢山の実をつける枝を連携プレーですぐに見つけ出し、手早く収穫。そのテキパキとした若々しいお姿に驚きと感動の連続でした。



手分けして収穫する老人会の皆さん

収穫した椿の実には1カ所に集められ、良い実だけを選別します。10日程天日干しすると左の写真のように実が弾け種が取り出しやすくなります。最近では昔に比べ収穫量が減ったらしく、椿に寄ってくるメジロの減少や山中のカズラの増加が関係しているのではと話す人もいます。それでも年間およそ100kgを収穫し、それをホープステーションで買い取るという流れで老人会の活動費を作っています。大変な作業ですが、福島町の椿油はこうした活動により支えられ受け継がれているのです。

町の特産品を支える地域の連携

椿油の製造と同じく手間と労力がかかるのが椿の実の収穫です。椿の実の中には4つの種が入っており、この種の良いものだけを選別し1週間ほど天日干ししてようやく椿油の製造過程に入ります。



(左) 収穫したばかりの椿の実 (右) 天日干し後

この実の収穫に一役買っているのが、地元福島町の老人会の皆さんです。町内に数団体ある老人会の内、現在4カ所の老人会の方々のご協力により沢山の椿の実が収穫され、地元産純度100%の椿油製造が守られています。今回は原地区老人会の皆さんの収穫作業に同行させて頂きました。

地元の伝統を引き継ぐ活動

15年程前から収穫を始めたという原地区老人会会長の松浦寛雄まつうら ひろおさんによると、年に3回程10数名が集まり地区周辺の椿が自生する場所で作業しているそうです。収穫に不



収穫した椿の実の積み込み作業

椿の実を受け取る松田さんも、皆さんのご協力を無駄にしないようにと搾油後の搾りかすも捨てずに畑の肥料として活用しています。その良い土のおかげで美味しい野菜が採れるそうです。時間と労力をかけ一生懸命集めた貴重な山の恵みを、最後まで大切に活かす福島町の椿油作りは、地域に根付いた伝統を守ると同時に、暮らしを支える取り組みへと繋がっていました。

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

ながさ木ハートのカスタネット発売！ ～ながさ木で、いろいろな人がつながり、みんなが幸せになること～

12月12日（土）、「ながさ木ハートのカスタネット発売記念 カスタネットづくり&ライブ 2020」が、大村市のシーハットおおむらで開催されました。

このカスタネットは、県央振興局林業課の職員が静岡県（株）鈴木楽器製作所の役員の方と SNS で知り合ったことがきっかけとなり、「木の優しい肌触りを親子で楽しんでもらい、大切な森林を身近に感じてほしい。」という思いから商品化への取組が始まりました。

製作は大村市の（有）野中木工所が協力され、（株）鈴木楽器製作所と県央振興局林業課で試作検討を重ね、今回の発売となりました。

カスタネットの形は、親子の手を合わせたハートをイメージしたもので、「やわらかな音を感じながら、楽しい時（リズム）を刻んでほしい。」という思いが込められています。

会場内では、カスタネットの表面を仕上げるワークショップが行われました。参加した子供たちは、「木を削るのって楽しい！」と初めての木工体験に夢中の様子でした。



ワークショップを楽しむ子供たち

また、社会福祉法人 清和福祉会の原田竜生さんが、木を使ったものづくりを福祉に活かす「福祉の木望活動^{きぼうかつどう}」について講演を行い、県央振興局林業課の職員は、森林のはたらきを伝える紙芝居の読み聞かせや、林業と木材、木と音楽についての講演、そして鍵盤ハーモニカの演奏を披露しました。



講演の様子

講演後は、県内で活躍するアーティスト「オグセキナリトリオ」がジャズライブを行い、参加者はカスタネットでリズムを刻み、演奏を一緒に楽しんでいました。

カスタネットの製作には、県立ろう学校、県立虹の原特別支援学校及び県立希望が丘高等特別支援学校の生徒の方々に協力していただいております。生徒の方が「木を触ると、とても気持ちがいいし、気分が落ち着くので、カスタネットを作るのが好きです。」と、誇らしげに話す様子がとても印象的でした。



木や森林、そして人とのつながりを大切に思う気持ちがいっぱい込められた「ながさ木ハートのカスタネット」、ぜひお手にとってみてはいかがでしょうか。

【お問い合わせ先】

有限会社 野中木工所

大村市富の原 1 丁目 1610-1

Tel: 0957-55-4861

公式 HP : <https://www.nonaka-mokko.com/>

（県央振興局 林業課）

地方だより

伐倒技術・安全意識向上研修が行われました



講師による実演（伐倒競技）

伐木チャンピオンシップの 競技を通じて

対馬市美津島町において、11月17日に伐木チャンピオンシップの競技を通じ、伐倒技術・安全意識の向上を図ることを目的として、研修会が開催され、対馬・壱岐の林業関係者57名が参加しました。



参加者で集合写真

伐木チャンピオンシップとは、林業技術及び安全な作業意識の向上、林業のイメージアップ、林業関係者・NPO等の森づくりへの積極的な参加、新規就業者数の拡大等を目的として世界的に開催されているチェーンソーの競技大会です。日本では平成26年から開催され、全国各地で大会が開かれるなど、盛り上がりを見せています。今年度は長崎県初となる「ながさき伐木チャンピオンシップ」が開催され、対馬から7名の精鋭が出場する予定です。

※新型コロナウイルスの影響により 5/29(土)に延期。

競技経験者による指導

開催にあたり、「くまもと Logging Club」から競技を熟知した4名の講師にきていただきました。伐木チャンピオンシップの競技種目の実演や解説、実技指導が行われ、ながさき版に出場する選手も、競技のコツなどを教わっていました。高い技術を目の当たりにした参加者からは、多くの質問が寄せられ、関心の高さが伺えました。研修で学んだことを活かして長崎大会で好成績を収めてほしいです。



丁寧な技術指導

安全を再確認！

伐木チャンピオンシップでは、安全性・正確性・速さを競いますが、特に安全性を欠いた行動の減点が多く設定されています。この研修を機に、日頃のチェーンソー作業の安全を再確認し、林業の労働災害ゼロにつなげていきたいです。

(対馬振興局 林業課)

地方だより

令和2年度 もり 五島市森林のつどい

令和2年10月24日、五島椿園にて「五島市森林のつどい」が開催されました。このイベントは、主に地域の緑の少年団を対象とし、学校での学習とは異なる緑に囲まれた環境の中で、身近にある森林の大切さを学んでもらうことを目的に毎年開催されています。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参集範囲の縮小や密を避ける等の対策を行いながらの開催となりました。

森林学習では、自分の背中に貼られたカードに描かれた動物の種類を、周りの人に質問して当てるゲームを行いました。周りの人へ出せる質問は3つしかないルールの中で、子供たちは動物の種類を知るために自分で一生懸命質問を考えていました。質問された子供たちも積極的に動物のイメージを伝え、盛り上がっていました。ゲームを通して、いろいろな動物の特徴を知り、自然への関心を持つきっかけになりました。



森林学習の様子

体験学習では、木工体験、つばき油作り体験を行いました。

木工体験は用意された木のプレートに、はんだごてで好きな絵を書き、オリジナルキーホルダーを作りました。キャラクターの絵や

自分の名前など、思い思いの絵を真剣な表情で書いていました。



木工体験の様子

つばき油作り体験では、五島の特産品であるつばき油が出来るまでの過程を体験してもらいました。つばきの種子を臼と杵を用いて細かく砕く作業は想像以上に大変で、全員で協力しながら頑張っていました。自分たちで砕いた種から油が精製できた瞬間は、子供たちから歓声が上がりました。普段学校ではなかなか体験できないことを、楽しく体験できたのではないかと思います。



つばき油作り体験の様子

(五島振興局 林務課)

林業団体情報

令和2年度 長崎県フォレストマスター登録研修を開催しました



木育推進の一環として今年度から始まったこの事業は、子どもから大人までの幅広い世代に森林や自然環境、林業、木材利用に対する理解や関心を深めることを目的とし、登録された長崎県フォレストマスターを県内各地域に森林環境教育の指導者として派遣するものです。

全国的に森林環境教育が重要視されていることや、県内では「緑の少年団」団員の減少、指導者不足、活動メニューのマンネリ化、講師派遣の依頼先がないことが課題となっており、その課題解消が狙いです。

長崎県フォレストマスターとは森林・林業等体験活動の経験を持った森林環境教育の指導者のことで、下記①～②の条件を満たした方を対象として登録研修に参加していただき、活動していただきます。

- ①県内に住所を置く、または居住・勤務しており、県内で活動できる。
- ②森林インストラクター、ネイチャーゲームリーダー、樹木医のいずれかの資格を持っている。または森林体験活動や木材利用の活動経験が2年以上あり、且つ10回以上の活動実績がある。

令和2年12月20日(日)県庁会議室にて令和2年度長崎県フォレストマスター登録研修を開催、19名が参加し登録されました。当日は新型コロナウイルス感染防止の為、開催時間を短縮、参加者同士の対話の制限やワークショップの中止など研修内容を一部変更して、感染防止対策を徹底しての開催となりました。

した。

研修では事業の主旨や森林環境教育の基本として、その定義やSDGsとの関連の話に始まり、県として森林環境教育を実施する際の共通理解として押さえておくべきポイントの紹介、安全に活動を行うための注意事項、インタープリテーション、伝え方の技術について取り扱われました。

参加者からは「インタープリテーションのお話は参考になりました」や「事前下見の大切さがよく分かりました」という感想がある一方で「時間が短い」や「体験活動を交えた講義をして欲しい」との声もあり、次回以降の開催の課題となりました。

今回登録された長崎県フォレストマスターの指導者一覧は長崎県森林ボランティア支援センターのHPに掲載され、県内各市町や保育園・学童、緑の少年団等に通知を予定しています。今後、イベントや森林環境教育等の依頼があった場合、長崎県森林ボランティア支援センターを介して、

- ① 日時、内容、場所、参加予定人数等確認
- ② フォレストマスターの意思確認
- ③ フォレストマスターによる依頼団体との打合せ・下見
- ④ 活動の実施

という流れとなります。センターでは今後もフォレストマスターの募集や研修等を実施し、安全で子どもから大人まで楽しい森林環境教育の場を支援していく予定です。

(長崎県森林ボランティア支援センター)

センターだより

ドローン空撮写真の地上解像度について

はじめに

先月号では、ドローンの飛行高度とラップ率について紹介しました。本号ではドローンで撮影された写真の飛行高度と地上解像度の関係について紹介します。

地上解像度とは

みなさんは、「解像度」という言葉をご存知でしょうか。解像度とは、端的に言えば画像の画素の密度を示すものです。デジタル写真は細かい画素（ピクセル）の集まりによって表現されています。この密度が高いほど、写っている物の細部まで確認することができます。

航空測量では、「地上解像度」という言葉を用い、「1ピクセルの大きさが地上でどのくらいの距離であるか」を意味します。図1は、地上解像度3.7cmのオルソ画像を拡大比較したものです。画像に写っている軽トラックを拡大していくとピクセル一つ一つを確認できます。この場合は、1ピクセルの1辺の長さが3.7cmということになります。



図1：オルソ画像の拡大図

必要な地上解像度について

ドローンを使って測量する際、施業区域を目視で判別する必要があります。そこで、地上解像度がどれくらいあれば十分であるかを調べるため、次のことを行いました。地上解像度の値は飛行高度に依存するため、飛行高度を40, 60, 80, 100, 120, 140mに設定し、ある

植栽地を撮影しました。それぞれ撮影した画像をオルソ画像にして、施業区域を目視で判別できるか検証しました。結果を表1と図2に示します。

表1：飛行高度とオルソ画像の地上解像度

飛行高度 (m)	40	60	80	100	120	140
地上解像度 (cm/pixel)	1.13	1.61	2.17	2.62	3.27	3.64



図2：飛行高度40m(左)と140m(右)の拡大比較

結果は、表1の地上解像度1.13cmから3.64cmの全てで施業区域を判別できました。図2を見てわかるように、この程度の拡大であれば見た目にほぼ差はありません。また、撮影枚数は40mで225枚、140mで25枚であることから、飛行高度が高い方がより少ない作業量で測量できると言えます。

終わりに

航空測量に用いるドローンの写真はもともと高画質であるため、高度150m以下の飛行では施業区域の判別に十分な地上解像度となります。必要以上に高解像度にならないよう飛行高度を調整することが、測量の省力化を考えるうえで重要となります。

(農林技術開発センター)

紹介コーナー 日和木(木工雑貨)



長崎市出津地区。ここに木材の温もりに魅了された若い女性アクセサリー作家さんがいらっしゃいます。吉永千聖さんです。ご主人と二人三脚で営む製作所の一角に設けられたギャラリーには、小さな木材を組み合わせて作られたイヤリングやピアス、ヘアゴムやチョーカーなど、思わず歓声がかげれる魅力的な小物がそと並べられています。優しい風合いのアクセサリーは幅広い年齢層のファンに大人気で、昨年11月に同地区で初めて開催された「外海文化市」では、出展ブースに人だかりが出来るほどの大盛況ぶりでした。使われている木材は長崎産ヒノキや東北地方から取り寄せるク

り、その他ブラックチェリー、ウォールナット、ローズウッドなど様々。実はこの長崎産ヒノキはご主人が手掛ける製作所オリジナル椅子の端材なんです。ひとつひとつが細かい作業の連続で、全て手作りのため量産が出来ない小さな木の小物たち。「日々の生活にほんのちょっとした彩りを添えられたら。」という吉永さんの想いのこもったほっこりと温かな作品に触れてみませんか。



日和木 (ひよりぎ)

住所：長崎県長崎市東出津町 1660-1

電話：090-5469-3081 (要問合せ)

営業時間：10:00-17:00 (日曜定休日)

作品に出会える場所

Ku-ji(クジ) 雲仙市国見町神代戊 2576-1

カレライフ 雲仙市小浜町北本町 905-29

cafe OZIMOC (カフェ・ジモク) 長崎市下大野町 2542

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和3年1月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	19,400	少ない	多い	多い
	16~18	小曲り	18,300	少ない	多い	多い
	20~22	直	18,900	少ない	多い	多い
	20~22	小曲り	17,700	少ない	多い	多い

【スギ】

令和3年1月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,300	普通	多い	多い
	16~22	小曲り	12,000	普通	多い	多い
	24~28	直	13,300	普通	多い	多い
	24~28	小曲り	12,000	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

あ た ご さ ん 長崎の山：愛宕山259m（佐世保市）



佐世保市新田町側からみた愛宕山

愛宕山は佐世保市北部の相浦町にある山で、その山型の美しさから「相浦富士」と呼ばれて地元住民から愛されています。昔から霊山として参詣する人が多く、山道のあちこちに祠や石仏があります。標高も259mと30分程度で登頂できることから、健康のために毎日登山するグループもいます。

愛宕山の由来は愛宕神社が山頂にあることから名づけられており、こちらに祀られるのは白馬に乗った鎧姿の「愛宕勝軍地蔵菩薩」です。本尊は普段は3kmほど離れた東漸寺に安置されており、毎年2月24日～26日の3日間開催される「相浦愛宕祭り」の際に住職の手で運び上げられ開帳されます。この愛宕祭りは、約400年の伝統を誇り、同時期には「あたご植木市」も開かれ、季節の竹木花木、草花、苗ものやとりどりの苗木が街路両脇に並びます。開催期間は参拝のために多くの人々が山頂を訪れ、登山客で登山口に列ができることも。

以前の愛宕山について、愛宕山の麓の飯盛神社の禰宜、松瀬様に話を伺いました。「この近辺は愛宕山と将冠山しょうかんやまに挟まれていることから相神浦と呼ばれ、東漸寺付近は宿場町として栄えていました。昔は里山文化が残っており、薪炭用に伐木したり炭焼き窯が各所にありましたが、最近では殆ど見なくなりました。将冠岳には今もいくつか残っており、榊の栽培なども行われています。」「愛宕山の

登山口には木ノ宮神社があり、平安時代に相浦地区を開拓した武部胤明命たけべのあきのみことが祀られています。ここには樹齢360年と推定されるタブノキが夫婦木としてあり、登山客が無病息災を願って触れていく光景をよく目にします。」

2月の相浦愛宕祭りへの参加とともに、木ノ宮神社のタブの大木をお参りし、相浦谷開拓の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



木ノ宮神社の推定樹齢360年のタブノキ

(NPO法人地域循環研究所)

長崎の林業 2月号 第785号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp